

研修名 保育士研修A「そだち」

平成28年7月1日(金) 10:00~16:00

講演 「憧れの保育士となって」

講師 大阪総合保育大学 大方 美香 氏



## 1 講演要旨

### 1) 子ども理解

- ① 子どもに対して、できる・できないなど決めつけず思い込まない。  
その子どものすべてをじっくりと見る。  
例) トラブルが多く困る子に対し、良い所もあるはずなので、良い所を十分に褒め、受け止める。
- ② 自分の当たり前=子どもの当たり前ではない。  
例) 給食の味噌汁を嫌がる子…食べないのは嫌いなのではなく、いつも食べている各家庭の味に慣れ親しんでいるからである。

### 2) 一人の発見を広げる保育

- ① 保育士が「みんなおいで！見て！」という言葉かけ、仲介に入ることによって一人の子どもの発見が他の子どもに広がる。
- ② 集団保育は、人間教育である。保育=生活であり見聞きすること、新しい学びがたくさん経験できる。
- ③ 集団保育だからこそ、一人の発見を多数へ拡大できる。発見（学び）は自分でしていくものであるから、終わりが無い。

### 3) 自分の振り返りの大切さ

- ① できている、大丈夫という思い込みはいけない。できていなことに気が付くことが大切。
- ② たった1分でも、一人ひとりと関わる時間を持つようにする。それにより、子どもとの信頼関係が築かれるようになる。

### 4) 気になる子どもへの関わり

- ① 保育士の気持ち・種は子どもにうつる。この子がいなかったらうまくいくのに…、という考えしない。
- ② 褒める場面を作らなくても、“ありがとう”を伝える場を作る。お手伝い等頼み、怒ったけれど、あなたは必要だよ。ということ伝える。

5) 憧れの保育士になるために

- ①疲れていても、雑な声掛けや関わり方をしない。保育士自身の精神状態を安定させる。
- ②子どもといかに沢山笑って過ごせるかが大切である。嬉しい、悲しい気持ちを言語化して共感すると子ども自身が自分の気持ちを理解できるようになっていく。

## 2 グループワーク

1) 大人社会

大人社会の変化=子どもの環境の変化

子どものスマホやタブレット使用が増え、育たない課題として、運動力・コミュニケーション力・握力・脚力の低下がある。親の子育てのしやすさ・楽しさ=子どもが十分に育たない。

2) 電話

携帯電話の普及により、昔のように受話器を取って耳に当てるという大人の真似をしたり、番号を覚えたりするなど、体験・経験が乏しくなっている。

## 3 感想

子どもにとって何が大切なことであるか、また子どもの目線に立って改めて考えること出来た良い機会であった。特にグループワークでは大人の都合で子どもが育っている印象が強く、それをどのように改善していけば良いのか改めて考えなければいけないと思った。

子どもにとって保育士は憧れの存在であり、モデルになるので、自分自身を見つめなおし、できていないことや、余裕のなさに気が付き、日々を振り返ることができた。

今回の研修で学んだことを、これからの保育に活かしていけるようにしたい。



記録 清仁保育園 植村 彩加  
岡田 史子  
田村 優奈